

令和2年度 関西福祉科学大学高等学校 学校運営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- ・建学の精神「感恩」の実践、校訓「明朗・友愛・誠実」を生かした校風を確立する。
- ・基本的な生活習慣を身につけ、優れた教養と学力をそなえた生徒を育てる。
- ・感謝の心を持った豊かな情操を育み、自立心のある人の育成を図る。

2 中期的目標

1 教育の質向上

- (1) 授業の質向上、学修成果の可視化(〇〇ができるようになる)
 - ・わかる授業ときめ細やかな学習指導の実践
 - ・授業アンケートや公開授業等を活用し、授業の質の向上を目指す。
 - ・ICT機器(教室にある電子黒板機能付きのプロジェクター)やICT教室を活用し、より「わかる授業」の実践を進める。
 - ・3時間/週の授業外学習100%を目標に学習習慣の定着を図る。
- (2) 卒業率96%以上
 - ・入学した生徒全員を卒業させるためにも、高校生活満足度調査の結果を検証、今後の課題を検討し、改善策を全体で共有する。
- (3) 教員のスキルアップ
 - ・教科の研修やICT機器の活用、外部模試の活用方法、生徒のやる気をいかに持たせるかなど学内学外を問わず、様々な場面、機会を通じて研修を進める。
- (4) 進路実績の向上
 - ・特別進学Ⅰコースを中心に、特別進学Ⅱコースからの合格者も含め、関関同立20名と産近甲龍50名(延べ数)の合格を目指す。
- (5) 課外活動・クラブ活動の充実
 - ・課外活動を充実させ、昨年度のクラブ入部率50.7%を70%以上となることを目指す。
- (6) グローバルな視点での教育の実践
 - ・異文化理解、人権、平和などのテーマを通して、世界規模で物事を考える発想を身につけさせる。

2 組織安定

- ・教育力の向上と積極的な広報活動により、生徒数1000名を堅持できるように努める。

3 教育環境の充実(安全 安心 快適 ECO)

- (1) 校内生活および学習環境の整備
 - ・新校舎での生活がスタートし4年目を迎え、整備された学習環境を積極的に活用する。
 - ・学園食堂「Tama Café」メニュー・販売時間、憩いの場「Tama Square」の有効活用(学生・生徒が、使い易く居心地の良い「快適空間」を目指す)。
 - ・人工芝グラウンドの積極的な活用(夜間照明の設置)。
- (2) 生徒の自主的な活動によるエコの実践
 - ・日常の生活の中で省エネ教育を実践する。

4 地域共生 社会に愛され成長する学園

- (1) 地域貢献活動の実践
 - ・全校生徒を対象とした地域周辺の美化活動の実践を継続する。
 - ・市民フェスティバル、交通安全啓発運動など地域主催行事へ積極的に参加する。
- (2) 地域連携公認プログラムの推進
 - ・地域連携公認プログラム「歴史・科学の市民講座」、「卓球・バレーボール・サッカー(新設)教室」(通年)を地域の子どもたちが多数参加できるように継続して実施する。

5 学園総合力の向上(学園ファミリー意識)各学園(職員)の相互協力 尊重 豊かな職場

- ・併設の大学、短期大学、幼稚園との連携を密にし、学園総合力を向上させる。
- (1) 内部進学の実現と促進(学年30%以上目標)
 - ・具体的には大学、短期大学との連携で進路意識を高めるプログラムを実践する。
 - (2) 子息女兄弟姉妹の入学促進
 - (3) 併設校園との連携教育の推進
 - ・保育進学コースについては、短期大学教員による週1時間の保育に関する知識、技能を身につける授業を実施する。
 - ・併設幼稚園では、複数回保育実習を実施する。

3 本年度の取組内容及び自己評価

	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	学校自己評価	学校関係者 評価委員会 の評価
1 教育力の質の向上	(1)授業の質向上	(1) 年度当初に各教科・各授業に対し「年間授業計画」を作成する。教科内で確認の上、教務、管理職でも確認のもと授業を進める。各学期終了後、実施内容、進捗、考查結果の状況など確認し、次学期に役立てる。 ・授業アンケート(7月:1学期期末考査後実施)の結果を基に各教員、教科内で検証「わかる授業」の実践に取り組む。 ・学外のICT研修などにも積極的に参加し、公開授業を通し、内容を教科で共有する。 ・3時間/週の授業外学習100%を目標に学習習慣を定着させ、学力向上に繋げる。	(1)授業アンケートの総体平均値が75点となること。 ・3時間/週の授業外学習を100%定着させること。	(1) 授業アンケートでの平均が78.1点(昨年度76.9点、一昨年度75.5点)年々平均値は上昇している。遠隔授業を機にそれぞれの教員がICT機器を使って授業の創意工夫を行った。今後さらに「わかる授業」のためのスキルを身につける。(○) ・授業外学習3時間/週(1日平均30分以上)している生徒は、57.0%(昨年度60.9%、一昨年度52.3%)であった。進路、教科による組織的な取り組みが必要。(△)	今後更なる努力を期待する。(○) 課題や小テストの活用に期待する。(△)
	(2)卒業率96%以上	(2) 卒業率96%以上を実現する。 ・高校生活満足度調査(10月:2学期中間考査後実施)については、職員会議で結果を報告の後、関係部署で検証し、今後の課題を検討、改善策を全体で共有する。	(2) 卒業率96%以上を実現する。 ・「学校生活の充実度」の肯定的回答率が65%以上であること。	(2) 卒業生は343人(入学時369人)、卒業率は93.0%であった。(昨年度卒業率95.1%) (△) ・「学校生活の充実度」の肯定的回答率69.9%(昨年度62.0%、一昨年度59.8%)であり大幅にアップした。(○)	卒業率向上のため努力に期待する。(△) 年々増加している。(○)
	(3)教員のスキルアップ	(3) 教科の研修やICT機器の活用、外部模試の活用方法、生徒のやる気をいかに持たせるかなど学内外を問わず、様々な場面、機会を通じて研修を進める。	(3) 教科の研修、外部模試活用研修、人権研修など実施すること。	(3) コロナ禍により、当初の研修は実施できなかったが、Classiの活用やZoomによる遠隔授業により、全教員のICTスキルアップにつながった。(△)	ICTの更なる活用に期待する。(△)
	(4)進学実績の向上	(4)進路指導部を中心に進路指導計画を策定の上、各教科学年との連携を基に指導を行う。	(4)卒業生徒の進路決定率100%。 ・関関同立20名と産近甲龍50名以上の合格(延べ数)。	(4) 進路決定率97.7% (△)(昨年度98.1%、一昨年度96.5%) 関関同立2名合格 (×)(昨年度5名、一昨年度10名) 産近甲龍20名合格 (×)(昨年度50名、一昨年度43名) この結果を受けて、進路指導の取り組み強化が重要課題と認識。	生徒の満足する進路決定と進学率の向上を期待する。(△)
	(5)課外活動・クラブ活動の充実	(5)生徒会と各クラブが連携し、クラブ紹介の方法を回数も含め工夫する。また積極的にクラブ体験を受け入れるようにする。 ・生徒会行事について見直しをすすめ、生徒会担当教員で検討の上充実させる。	(5)クラブ入部率70%以上であること。	(5) コロナ禍により文化系、運動系共に活動が制限され、大会や発表会等も中止となった。 クラブ入部率52.7%(昨年度50.7%、一昨年度48.1%) コロナ禍のなかでも順調に伸ばすことができた。(△)	活発な課外活動、クラブ活動の活性化を望む。(△)
	(6)グローバルな視点での教育の実践	(6)英語検定を積極的に受験させる。 ・異文化交流や異文化理解できる行事を検討する。	(6)英語検定を積極的に受験させる。 ・総合的な探究の時間に異文化理解の講座を設ける。	(6) 第1回英語検定は中止。 年間受験者246名 2級合格5名 準2級合格23名 (△) 昨年受験者511名 2級合格11名、準2級38名合格 一昨年度384名 2級合格15名、準2級44名合格 ・海外青年協力隊の方の講演会やグローバル体験プログラムなどを実施。(△)	中止はやむなし。更なる取り組みに期待する。(△)
2 組織安定	組織安定	・入試広報部と運営委員により構成される「入試委員会」で対外的な募集・広報活動計画と校内における入試説明会、体験入学のプランを策定し、全教職員で内容を共有する。	・入試説明会、体験入学の参加人数が昨年度の2717名を上回ること。 ・新入生350名、生徒総数1000名を堅持すること。	・今年度の学校・入試説明会、体験入学の参加人数は、計2263名(昨年度2717名)予約制をとるなどして可能な限り実施したが、コロナ禍もあって減少した(△) ・令和3年4月の生徒総数は1066名(昨年度1127名 一昨年度1077名)新入生304名(昨年度383名、一昨年度413名)入学者の減少傾向が続いている。(×)	コロナ禍の減少はやむなし(△) 減少傾向に歯止めをかける方策に期待する。(×)
	(1)校内生活および学習環境の整備 (2)生徒の自主的な活動によるエコの実践	(1)人工芝グラウンドの積極的な活用(夜間照明の設置) (2)日頃から「ものを大切にできる意識」、「省エネの意識」を、教職員、生徒の間で話題にする。	・計画を無事完了すること ・エアコン夏25℃、冬22℃に設定	・計画事項を無事完了。(○) ・教職員の意識改革と生徒会を中心とした全校生徒への働きかけが必要。(△)	良好と評価できる。(○) 環境問題への意識を高める努力を。(△)
3 教育環境の充実	(1)校内生活および学習環境の整備 (2)生徒の自主的な活動によるエコの実践	(1)人工芝グラウンドの積極的な活用(夜間照明の設置) (2)日頃から「ものを大切にできる意識」、「省エネの意識」を、教職員、生徒の間で話題にする。	・計画を無事完了すること ・エアコン夏25℃、冬22℃に設定	・計画事項を無事完了。(○) ・教職員の意識改革と生徒会を中心とした全校生徒への働きかけが必要。(△)	良好と評価できる。(○) 環境問題への意識を高める努力を。(△)

4 地域貢献	(1)地域貢献活動の実践	(1) 生徒会美化委員会が主催する、本校の伝統である「美化ボランティア」清掃活動を今年度も実施する。1 回目は全校生徒(希望者)対象で 6 月上旬実施、2 回目は学年毎に 1 年(10月)、2 年(11 月)を予定する。	(1)計画通り実施する。	(1)コロナ禍によりすべて中止。	評価なし
	(2)地域連携公認プログラムの推進	(2)地域と連携し、市民講座・スポーツ教室を実施する。 ・歴史・科学の市民講座を実施する。 ・卓球・バレーボール・サッカー(新設)のスポーツ教室を実施する。 ・地域の市民フェスティバルに参加する。	(2)予定通り参加する。	(2)コロナ禍によりすべて中止。	評価なし
5 学園総合力の向上	(1)内部進学の実績と促進(学年3割以上目標)	(1) 学園内大学・短期大学入試ガイダンスを実施する。 ・PTA 主催併設大学・短大見学会を実施する。	・併設大学・短大への進学者 100 名以上。	・併設大学・短大への進学者数 105 名(昨年度 76 名、一昨年度 125 名)(○)	学園の魅力を発信し更なる増加に期待する。(○)
	(2)子息女兄弟姉妹の入学促進	(2)日常の教育活動を通して、本学園のファンを増やす。		・PTA 主催併設大学・短大見学会はコロナ禍により中止。	
	(3)併設校園との連携教育の推進	(3)大学・短大・幼稚園と連携し、担当者会議を行い、これまでの取り組み内容をベースに、課題や改善点を見だし、より良い取り組みを作り上げる(保育進学コース授業、保育実習など)。	・実施内容と生徒の満足度を基準とする。	・コロナ禍により、当初予定していた連携教育は中止、または大幅な制約のもとでの実施となった。(△)	コロナ禍でも実施しようとする姿勢は評価できる。(△)

4 学校教育自己診断の結果と分析

<p>学校教育自己診断の結果</p> <p>(1)建学の精神、校訓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高い評価の項目 「建学の精神『感恩』が生徒によく理解されている」 (教員 81.0%) ・低い評価の項目 「校訓『明朗 誠実 友愛』が生徒によく理解されている」 (教員 55.6%) <p>(2)学習・進路</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高い評価の項目 「進路指導面で、学校は保護者へ、きめ細かく情報を提供している」 (教員 87.3%) 「進路に関する相談はきめ細かくなされている」 (教員 88.9%) 「生徒が希望した進路におおむね進んでいる」 (教員 93.7%) ・低い評価の項目 「外部の模擬試験のデータを進路指導に役立てている」 (教員 58.7%) 「進学補講の参加者は熱心に参加している」 (教員 63.9%) ・昨年度は外部模試後の活用研究会などを入れて進路指導に生かしたが、今年度は研修も実施できず、模試のデータを十分生かしきれなかった。しかしながら遠隔授業を契機に、ICT機器の活用が進み、教員一人ひとりが創意工夫をこらしながらオンラインでも「わかる授業」を実践してきた。引き続き、小テストや週末課題などにより授業外学習を増やし、学習習慣の定着を図る努力が必要。 <p>(3)課外活動・クラブ活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高い評価の項目 「生徒会活動は活発に行われている」 (保護者 93.3%) 「部活動は全般にわたって活発に行われている」 (保護者 86.7%) 「学校行事は生徒にとって魅力あるものとなっている」 (保護者 80.0%) ・コロナ禍で、課外活動・クラブ活動はかなりの制限を受け、満足な活動ができなかった。その中でも、生徒会ははじめ各クラブは工夫しながら活動を続けた。クラブ入部率、学校生活の充実度は上昇している。 <p>(4)生徒指導・教育相談</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高い評価の項目 「制服の着用、頭髪等身だしなみを整えるよう指導を徹底されている」 (保護者 100.0%) 「生徒指導において、家庭と緊密な連携が出来ている」 (保護者 93.3%) 「早期指導(個人面談、HR指導、初期対応など)に学校全体で取り組んでいる」 (保護者 93.3%) 「体調不良等心身の悩みを訴える生徒に対して、親身に対応している」 (保護者 93.3%) ・今後も家庭との連携を大切にし、面倒見の良い教育を実践していく。 <p>(5)情報公開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高い評価の項目 「本校はホームページで保護者の知りたい情報を発信している」 (保護者 93.3%) ・低い評価の項目 「保護者に子どものクラスの授業を公開している」 (保護者 40.0%) ・全体的な情報公開について PTA 総会の日に授業参観を実施しているが、今年度はコロナ禍により総会が中止。塾対象説明会では授業を公開できた。授業参観を通して、学校や子どもの教育に関心を持って頂き、連携して教育活動を進めていきたい。 コロナ休校中もホームページに教員メッセージをアップした。タイムリーな情報を素早く発信、提供するよう努める。 校内設置のデジタルサイネージでは、委員会活動やクラブ活動の結果報告を日々更新した。 <p>(6)施設・設備・その他全般</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高い評価の項目 「施設・設備は充実している」 (保護者 73.3%) 「教員はチームワークがとれており、どの教員も一貫した対応をしてもらえる」 (保護者 100.0%) 「どの教員も相談しやすく、誠実に対応してくれる」 (保護者 100.0%) 「子どもをこの学校に入学させてよかった」 (保護者 100.0%)

5 学校関係者評価委員会からの意見

【改善が必要な内容】

- ・家庭での学習時間を増やすには、学校全体で取り組んでいく体制が必要だと思う。各教科が課題や小テストを計画的に出しながら、家で学習するきっかけを作り、定着をはかるようにすればよい。本校は真面目な生徒が多いので、是非やってほしい。
- ・授業外での学習をもっと充実すべき。
- ・クラブ活動が活発になってきていることは評価できるが、文武両道できるよう、更なる目標に向けてチャレンジできる体制を作してほしい。
- ・コロナ禍でなかなか難しいと思うが、高校生にとってはクラブで人間関係を学ぶこともあり、クラブ経験は非常に大切で是非入部してほしい。そのためには1年生の時に入部しやすい雰囲気を作ることが大切。途中からではなかなか入りにくいので初めが肝心。
- ・登校時、下校時の自転車の2人乗り、並走を頻繁に見かける。他の人の通行の妨げになるし、自動車の通行では非常に危険を感じている。
- ・入学生がもう少し増えればと思う。コロナ禍でオープンキャンパスの参加者が減ったり、規模を縮小して実施したりもあって、十分に学校を見てもらえず、残念に思う。
- ・併設大学、短期大学への入学者は100名を超えて良いと思うが、総合学園の良さを発揮して入学者を増やせればと思う。
- ・関関同立、産近甲龍の合格者が激減しているのは残念に思う。コロナで休校になり、学校行事や検定、模試も中止になったりして、生徒たちのモチベーションが上がらなかったのは仕方ないと思う。

【評価された内容】

- ・小中学校では1人1台の端末が進んでいる。これからはICTの時代。Zoomの授業は継続して続けてほしい。
- ・クラブ活動の活発な声に元気もらっている。活気のある学校はいい学校。休校中は寂しく感じた。
- ・制服の着こなし、身だしなみは、以前より良くなった。学校の落ち着きを感じられるようになった。
- ・授業アンケートの平均点が上がっているのは、先生方の熱心な姿勢の表れだと感じる。
- ・学校生活の充実度の肯定的回答率が高いことは非常に評価できる。生徒たちにとって、雰囲気の良い快適な学校生活が過ごせていることだと感じている。
- ・在籍数が1000名を維持できているのは先生方の努力の結果だと思う。
- ・デイサービスの施設に玉手山学園の卒業生がたくさんいる。評判は非常に良い。社会へ出て「感恩」の精神を持ち続け、たくさんの人々に受け継がれていることを実感している。

貴重な意見を参考にさせて頂き、保護者や地域の方々の協力も得ながら、教職員全員で課題改善に向け努力して取り組んでいきたい。